

会 議 録

会議の名称	令和5年度 第2回 和泉市健康づくり推進市民会議
開催日時	令和6年3月14日(木) 午後2時～3時30分
開催場所	和泉市保健福祉センター2階 集団検診室
出席者 (敬称略)	<p>【委員】 上嶋副委員長、北野副委員長、松山委員、西川委員、早崎委員、柴田委員、細川委員、石橋委員</p> <p>【事務局】 吉田副市長 子育て健康部 藤原部長 健康づくり推進室 高橋室長 健康増進担当 藤原課長、村上総括主幹、源総括主幹、川上総括主査 葛城主任</p>
会議の議題	第3次健康都市いずみ21計画における達成目標の進捗について 第3次健康都市いずみ21計画の取り組みについて(報告、次年度予定)
会議の要旨	<p>1. 開会</p> <p>2. 案件</p> <p>(1) 前回の振り返り</p> <p>(2) 第3次健康都市いずみ21計画における達成目標の進捗について</p> <p>(3) 第3次健康都市いずみ21計画における各機関等の令和5年度の取り組み及び令和6年度の取り組み予定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政の主な取り組み及び取り組み予定 ・参画団体の主な取り組み及び取り組み予定 <p>(4) 第4次和泉市健康増進計画の策定</p> <p>(5) その他</p> <p>3. 閉会</p>
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 要点記録
その他の必要事項	傍聴人：0人

審 議 内 容

1. 開会

- ・事務局より議事、資料、本日の流れの確認。
- ・委員長が欠席のため、上嶋副委員長より開会の挨拶。

今年度も「第3次健康都市いずみ21計画」にかかげている健康課題を踏まえ、各団体様には8つの健康分野の取り組みを展開していただいた。皆様方から、活動報告をいただき、今後も取り組みを進めていただくことになろうかと思う。引き続きご協力をお願いしたい。

2. 案件

(1) 前回の振り返り

- ・事務局より、第1回会議の議事内容を確認。
- ・健康につながる活動情報、意見交換に関する対応を報告。

(2) 第3次健康都市いずみ21計画における達成目標の進捗について

- ・健康寿命は計画策定時から着実に上昇も、不健康期間は女性で悪化。死亡や要介護認定者の増加などコロナの影響も推察されるが、経年の変化も含め次期計画策定でも分析していく。

- ・評価指標と目標値について、「こころ」「健康チェック」の数値を新たに追記。

- ・数値をお示しできた13項目中10項目(76.9%)が改善傾向という結果となった。上嶋副委員長より、特定健診というのは全ての市民が市の特定健診を受けるわけではないと思うが、それを差し引いて考えても(受診率が)低い数字。皆さまが受けていただけるような特効薬的なものはないと思うが、方策等の知恵について何かないか。との声かけあり。

→事務局より、数値が高い市町村に取り組みを確認し、参考にしながら進めていきたい、と回答。がん検診の受診率については府下33市の中で5大がんについて、3位となっている。胃がん検診は数値低いが、検診実施の方法により、受診率が変化する傾向にあるので、市として取り組みを検討する。と説明。

(3) 第3次健康都市いずみ21計画における各機関等の取り組み予定について

- ・事務局より、令和5年度における行政の主な取り組みと令和6年度の取り組み予定について報告拡充、充実したものを中心に報告。また、各団体及び市民委員より活動を報告。

〈歯科医師会〉 上嶋副委員長

- ・今後、市民健康まつりに来られない人、コロナ渦において大勢集まることに不安がある人に対し、健康まつりの期間に行政を通じて資料を流すなどはどうかと考えている。正しい口腔管理、嚥下という点をまとめ、市民健康まつり等の期間に流せるとよ

いと考える。

- ・歯周病検診について、30歳から70歳の5歳刻みの検診を来年度6月から20歳、25歳も追加して個別検診を行う。

- ・口腔機能管理体制確保事業として、脳卒中の入院患者に対し口腔衛生の向上通じた入院期間の短縮を目的とし病院に出向いての歯科口腔に関する専門的病院スタッフの人材育成支援、地域病院との連携推進のための研修を実施。

- ・和泉市在宅歯科口腔ケア地域連携研修会として、リハビリテーションの専門家に摂食嚥下障害の人たちに対する研修会、介護専門職等の口腔ケアに携わる人に向けた講演会を実施。

- ・診療報酬の改定の中で連携という言葉が多く使われている。特に医科のほうではリハビリ栄養口腔連携加算という新しい点数が貼り付け。医科と歯科と栄養士がしっかり連携し、しっかりと食事がとれるということを三位一体の連携で行なえるよう、嚥下機能を含め頑張っていきたい。

〈薬剤師会〉 北野副委員長

- ・食育報告会に参加。

- ・お薬教室と薬物乱用防止教室を今年度は市内小学校10校実施。来年度は今年度行わなかった10校で実施予定。「早寝、早起き、朝ごはん」等も含め、食育のことも絡ませながらまた、オーバードーズ等、色々なことが問題になっているのでそのあたりもフォローしながら実施したい。

- ・今年度ホームページを立ち上げ、現在は薬剤師会会員の情報共有を重点的に、厚みを持たせているところ。来年度は市民向け等、一般の人向けの内容を充実させたい。

- ・在宅対応薬局一覧も医療と介護の連携推進専門部会の協力を得て10月に完成。医療機関を含め訪問看護ステーション等にも配布。年に1回を目途に更新したい。

〈老人クラブ連合会〉 松山委員

- ・老人クラブの掛け声は「きょうよう」と「きょういく」今日用事がある、今日行くところがある、家に閉じこもらないで健康寿命を延ばすための各種行事を実施。

- ・堺市の防災センターでの体験を実施。その中で自助、共助、公助という話が出、能登の地震を見ても老人の死亡者が多い、72時間という中で共助がどれだけ大事かということの説明があった。老人クラブはどちらかというと助けてもらう側だと思う。持病があったり、緊急時薬も持っていない状況もある。老人クラブは町会の下部組織であり、今までは老人クラブが独自で行なっていることもあったが、老人クラブ、町会の役員、地域の若い人の手を借りる状況になると思う。老人クラブ総会にて、議題に出し、各団体との連携を行っていく中で共助という1番影響をうけやすいため、役所や保健所を含めた合同力を無理しない形で活動していきたい。

〈和泉保健所〉 柴田委員

- ・「栄養・食生活」について、地域と職域の連携による健康づくり及び栄養食生活の改善ということで、高齢になった時も医療にかかることが少なくなるというところを目指し、働く世代（2か所の事業所）に取り組みを実施。

1つの事業所は健康経営に取り組んでおり、そこで減塩と食生活改善で健康寿命を延ばそうをテーマにチャレンジ宣言している。そこと連携し大阪府が推進している基準にあったメニューを従業員食堂で提供。実際の食事を通してヘルシーなメニューを体感。また、適塩とカリウム摂取のための野菜摂取についても情報提供し自己チェック、アンケートを通じて事業者と共有。

11月の世界糖尿病DAYの時期に糖尿病予防で健康づくりのイベントを実施。飲料に含まれる砂糖量の啓発、野菜摂取に関する啓発、食堂でVOSメニューを提供してもらい共有。

・和泉保健所管内、地域と職域の連絡会を年1回開催。管内市町の国保課と健康づくり課の代表と職域の商工会議所、地域産業保健センターや労働基準監督署などに参加いただき、地域の課題や特定健診の受診率向上についての話し合いをし、職域と地域が繋がって取り組めることはないか、テンポアップしながら話をした。

〈食生活改善推進協議会〉 早崎委員

・壮年期の料理教室で朝食からたんぱく質をとることが大切という講話を実施。壮年期という名前の教室でも参加者が70歳以上の人の占める割合が多く、高齢化。

・食改ではあまり講話で口腔のことは取り上げることはなかったが、歯周病から健康に関すること、関係することが大きいということを知り、栄養を摂るためにも口腔のことは大切だと思っているのでこれからは講話に口腔のことも入れていきたい。

・出前授業はいきいきサロンや乳幼児と保護者に向けたものが主で、壮年期に対しての出前事業は出来ていない。自分たちの活動をアピールし、出かける回数を増やしていきたい。

〈地域活動栄養士会〉 西川委員

・コロナ渦最中にインスタグラムとフェイスブックの活用を充実。支援センター、地域のサークルから依頼が来るようになった。時代に沿ってやっていかないと実感。

・栄養士は資格をもっているのでもこういうボランティアをやる方が少ない。今、地活栄養士会も高齢化し、活動がすごく減退しているのが現状。和泉市も会が発足して三十数年になり、所属して19年ほどになるが、若い担い手を集めるためにも、インスタグラムを活用。どのようなことをしているかを若い人たちが見て、30代と40代の会員も増えているが、担い手の問題はあります。

・高齢者への出前講座はあまりできていない。ニーズがあればお声かけほしい。また壮年期とか中年期の方にどういう風にやっていくかが毎年課題。市の教室などは意識の高い人しか行かない。

・教育の依頼があり、食事に関する話をしたが、バランス以前の問題もあり、どのレベルで話をしたらよいかという現状だった。参加者は少数だったが、録画したものをその企業の就労者向けにホームページで配信。

〈医師会〉、〈町会連合会〉、〈社会福祉協議会〉、〈障がい者団体連絡協議会〉、〈スポーツ推進委員協議会〉 事務局より代理報告

・資料4のとおり。

〈市民委員〉 細川委員

・同じ町内に住まいする高齢者夫婦の見守り支援を実施。町内においても1人住まいの方も増えている。つながり合うことで高齢者の集まりの会に今まで参加していなかった人の参加が増えた。

・次年度も地域での健康づくり、各種活動への参加ということの課題の2点を自分に課せていこうと思う。

〈市民委員〉 石橋委員

・ヘルサポの活動として、食育部、企画部、運動部の活動を実施。クッキングイベントやウォーキングイベント、ココロいずみダンスの周知などを行なっている。

・地域でいきいきいずみ体操を実施し、おもりを使った筋力体操もしている。そこでもココロいずみダンスやコダイ君ロマンちゃん音頭など、身体を動かすことを取り入れている。

(4) 第4次和泉市健康増進計画の策定

策定体制、検討委員会、スケジュールについて報告。

・健康増進計画の「栄養・食生活」「地域力」の分野で、課題や目的が重なる部分があり、連動した推進が必要であることなどから、食育推進計画と同時に策定。

・計画策定にあたり、検討委員会を設置。学識経験者や各分野において専門性を担う団体に協力いただき、議論を重ね策定。

・本市民会議と並行して検討委員会を開催。検討委員会は5回、市民会議は2回実施予定。

・関係団体の皆様には、ヒアリング並びに検討委員会委員として、ご協力いただきたい。

→石橋委員より、ヘルサポは自主的に健康づくり活動をできる自慢のグループ。和泉市目標の健康寿命を延伸につながるよう、若い人たち、次の世代の人たちに健康を送ろうという目標がある。未来とかをテーマに入れていただければと思う。との、意見。

(5) その他

・次回会議について、令和6年5月予定。

・委員変更のある団体について、変更届の提出を依頼。

4. 閉会

・吉田副市長より閉会の挨拶。

各関係機関や地域の活動の団体の皆様の報告を詳しく聞いて大変良かった。こうした皆様の活動がさらに効率的、効果的なものになり、成果として市民の幸せに繋がればいいと心を新たにされた次第。

健康都市いずみ21計画、食育推進計画について、次回からはそれらを一体化して作るようになった。縦割りの計画が乱立すると実効性のない計画がたくさんできがちになるので、一体化するメリットを大いに活かして市民の役に立つ計画づくりに結びつ

けていきたい。一体化して検討していかないといけないのは何かということだが、上嶋先生からご報告の中で「連携」というキーワードが出た。ぜひ関係機関同士の連携を強め、市役所もその中に入り進めていかなければならない。同時に自助・共助・公助の連携についても言及があり、今後それらも取り組んでいきたいと思っている。さらに市長から、自助・共助を支える公助をしっかりしなさいという命令が下っており、それもやっていきたい。

関係機関同士の連携というのは卵の上の連携。卵の下が住民同士の連携であり、両方やっていかなければならない。この卵の上と卵の下をしっかり合わせなければならぬ、これが合って初めて真の地域包括ケアシステムが構築できると考えている。

担い手、社会資源の不足という話について、次年度からさらに力を入れ、創発の場開発プログラムを進めていきたいと思っている。市民活動の減少、衰退ではなく、おそらく多様化した形で全体のボリュームとして増えたと認識。シーズとニーズのミスマッチをしっかり合わせていくのが今後必要になる。支えられる側と支える側との二元論ではなく、みんなが主役なんだと、すべての人々に役割があるという考え方で連携していくという必要がある。これが市長が推奨しているプラチナタウンであり、創発を進めていく新しい時代の地域福祉とか地域での健康づくりのベースになる考え方ではないかと考えている。

最後に、推進市民会議の皆様方こそ、シーズとニーズを合わせるための縦、横、斜めの色々な櫛をさしていただく技と考えるので、引き続き皆様方の支援・ご指導を賜りますよう、お願い申し上げます。